

神楽名

あきもと  
**秋元神楽**

伝承地

秋元地区  
高千穂町大字向山秋元

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

秋元神楽保存会  
代表 飯干金光

御神幸

## ◆ 神楽の概要・由来・その他

秋元神楽を伝承する向山秋元地区は、高千穂町の南側に位置し、諸塚山もろつかやまを挟み諸塚村もろつかそんと隣接し、急峻な山の麓に37戸の民家が点在する。豊富な地域資源を生かし、観光と連携した農村産業に取り組む集落である。

鎮守である秋元神社は、天和3年（1683）に現在地に建立されたといわれ、日本書紀の天神三柱である国常立尊、国狭槌尊、豊斟淳尊を祭祀する。諸塚山の北麓、太子ヶ窟に通じるとされる秋元神社は、山岳信仰の拠点と伝わる。神楽の主祭神を「道神楽」「杉登入鬼神」「注連口」にお出ましになる諸塚太子大明神と定める。太子大明神の面様には、元禄12年（1699）の墨書が残る。

秋元神楽は、浅ヶ部神楽の師匠樋口治吉朗ひぐち じきちろうが伝えた三田井系の神楽とされ、三十三番が省略せずに舞われる。この地は国道327号線が開通するまでは、諸塚村と高千穂町中心部の三田井地区を繋ぐ交通の要所であった。

## ◆ 芸能の機会・場所

- 秋元夜神楽... 11月30日に近い土・日曜日（秋元公民館にて）
- 小正月... 水神様（妙見様）の祭り  
妙見神社にて修祓後、秋元公民館にて式三番+「住吉」「沖逢」「山森」奉納
- 彼岸祭り（春・秋）... 一番を奉納（秋元神社神楽殿にて）

## ◆ 演目一覧

宮神楽	ごしんこう みちかぐら 御神幸・道神楽	みこうや 御神屋ほめ	ひこまい 彦舞	たいどの 太伊殿	かみおろし 神嵐
鎮守	すぎのぼり 杉登	しんじ うじこまつ 神事・氏子祭り	じがため 地固	ひかんぜ 幣神添	ほんはな 本花
住吉	おきえ 沖逢	ゆみしょうご 弓正護	しきじん 七貴神	だいじん 大神	そではな 袖花
岩潜	ごこく 五穀	ごしんたい 御神体	じわり 地割	たちかんぜ 太刀神添	やつばち 八鉢
武智	やまもり 山森	しばひき 柴引	いせ 伊勢	たちからおのみこと 手力男命	うずめ 鈿女
戸取	まいひらき 舞開	ひまえ 日の前	おんしば 御柴	しめぐち 注連口	くりおろし 繰於呂志
雲於呂志	神送り				

※令和元年（2019）11月30日～12月1日に奉納された演目に基づく

## ❖ 演目の特徴

秋元神楽は、高千穂町内では衰退してきている神楽せりの復活を図っている。神庭では神楽が盛り上がりを見せる最中、外注連脇で「こよさ夜神楽にゃ競ろとて来たがサイナー ヨイヨイサッサヨイサッサ」と神楽せり唄が歌われ、里人や一夜氏子がともに輪を作り、競り合い、場をさらに盛り立てるのである。

神楽の前半は祓い清めの舞や諸々の神を招く舞が続き、深夜には“目覚まし神楽”ともいわれる「御神体」「八鉢」などのユーモラスな舞がある。夜明けに奉納される岩戸開きの神話にちなんだ「岩戸五番」（「柴引」から「舞開」の六番）の後、“注連神楽”として「注連口」「繰於呂志」「雲於呂志」で神々を送り、一夜の神楽は終わりを告げる。

## ❖ その他の特徴

- 面... 太子大明神、猿田彦命、御神体、八鉢、柴引、鈿女、手力男命 等
- 楽... 太鼓、横笛
- 装束... 白衣、白袴、素襖（麻）、千早、裁着袴、毛笠、どっさり、烏帽子、天冠 等
- 採り物... 鈴、榊、扇、御幣、杖（荒神杖等）、弓、矢、刀、麻緒、折敷、襷 等
- 文書... 『高千穂町文化財調査報告書 第十集 国指定重要無形民俗文化財「高千穂の夜神楽」～秋元神楽保存会所蔵 神楽関係古文書資料集～』 高千穂町教育委員会発行 等

## ❖ 伝承の現状・課題

集落の半分の世帯が神楽を継承している。後継者に不安はあるが、祭りには町外に出た者も戻り、神楽の加勢をしてきている。

令和2年（2020）現在、舞手である奉仕者殿は28名、小学生から最高齢91歳まで幅広い年代が保存会に所属している。県内外にとどまらず海外での公演も行うなど、神楽の保存継承に努めている。



御神体



柴引



日の前